

つぎの ぶんしょうを よんで、もんだいに こたえましょう。

雨の日、おばあちゃんのいえで、おてだまをしました。

おばあちゃんは、おてだまを二つもって、ぽんぽんと上へなげます。

一つがおちてくるまえに、もう一つをなげます。おてだまは、まるで
おどっているようでした。

「すごい。わたしもやる。」

わたしもやってみました。でも、一つをなげると、もう一つがうま
くなげられません。おてだまは、ぽんと下におちてしまいました。

「さいしよは、一つでいいのよ。」

おばあちゃんが、おしえてくれました。一つだけなげて、手でうけ
とる。それを、なんかいもやりました。

かえるころには、二つで三かい、つづけられるようになりました。

(このもんだいのための かきおろし)

(一) おばあちゃんのおてだまは、なにのようでしたか。「ようでした」につ
づくように、ぶんしょうから十字までで、かきぬきましょう。

ま
る
で
お
ど
っ
て
い
る

(二) わたしはじめてやったとき、どうになりましたか。アゝウから一つえら
びましょう。

ア ニつで三かい、つづけられた。

イ おばあちゃんより上手にできた。

ウ おてだまが、下におちてしまった。

ウ

(三) おばあちゃんは、さいしよはどうすればいいと、おしえてくれましたか。
ぶんしょうから十字までで、かきぬきましょう。

一
つ
で
い
い

(四) かえるころ、わたしは、どんなことができるようになりましたか。二十
字までで、かきましょう。

う	二
に	つ
な	で
っ	三
た	か
。	い
	、
	つ
	づ
	け
	ら
	れ
	る
	よ

【小I】国語 文章問題 物語文 5 答えと解説

問一（二十五点） 答え：まるでおどっている （おどっている でも正解）

解説：二つ目のまとまりの、さいごの文から。

問二（二十五点） 答え：ウ

解説：四つ目のまとまりから。アは、かえるころのこと。

問三（二十五点） 答え：一つでいい

解説：おばあちゃんのことば「さいしょは、一つでいいのよ。」から。

問四（二十五点） 答えの例：二つで三かい、つづけられるようになった。

解説：さいごの文から。はじめはできなかったことが、れんしゅうしてできるようになった。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①おてだま二つで

②三かいつづけられる